

第6回専門部会 議事録（地域カテゴリー）

平成28年2月25日（火）18時30分～

登別市市民活動センター のぼりん 2階 市民活動室A

- ◆出席委員：藤田 康 委員
千葉 洋子 委員
米田 登美子 委員
佐野 亮二 委員
荒川 昌伸 委員
岩崎 隆二 委員
計6名

- ◆事務局：商工労政グループ穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆議題：（1）各専門部会における具体的事業の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
	事務局	ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第6回専門部会を開催いたします。
	委員	前回の振り返りとしては、目指すべきところとして道の駅というものはあるが、いきなり達成できるものではないから、まずはアーニスを活用した取り組みが出来たらいいだろうという話であった。
	委員	道の駅の中で何をやりたいのかが見えない。情報発信ということが言われているが、具体的には何をやるのだろう。
	委員	アーニスの一角に拠点を常設するとともに、広場スペースでイベントを行ってみるのがいいという意見であった。
	委員	情報発信とは、どのような情報を指すのだろう。
	委員	企業の情報、技術を発信するということだろう。食べ物ばかりでなく、工業製品なども含まれると思う。
	委員	アーニスで情報発信を行うとして、対象者を地元市民にするのか、観光客にするのか。現実的に、アーニスで行うことで観光客は来るだろうか。
	委員	当初のイメージでは、観光客よりも、市内近郊の方が立ち寄ることを目的としながら、ターゲットを徐々に広げていくというものである。
	委員	物販や隠れた技能の紹介、体験学習などを行うということだろうか。 例えば札内でバターやチーズの製作体験を行うとすると、常時行っていかなければならないだろうが、月に1回程度の頻度であれば様々な選択肢が広がるだろう。 だがそれを誰が主体となるのだろうか。
	委員	主体となる組織として、NPO法人や、行政と民間を織り交ぜた組織を立ち上げるなどという選択肢が挙げられていた。

	委員	<p>アーニスを活用するのであれば、誰が、どのようなものを売のかなど、実費が発生したときの主体を明確にし、財源を確保できないと実施はできないと思う。</p> <p>駅前再開発のように、道の駅に限らず、駅前を中心として人が集う場が必要だと思う。</p>
	委員	<p>パネル展のようなものだと、行かないかもしれない。自分の好きなジャンル以外だと、なかなか足を運ばないだろう。</p>
	委員	<p>せっかく登別に来たお客様が地元産品を買う場が必要だろうが、設けるのであれば求めやすい場所にあった方が良いのでは。行きやすい場所に設ける位なら、マップを作成して、市内に点在している魅力ある場所を紹介する方が効果的だと思う。</p>
	事務局	<p>スタートの時点ではごく一部だけがやる気を出して精力的に活動していても、その動きが発端となって周囲を巻き込んで大きい動きにしていければよいだろう。</p>
	委員	<p>金融機関は回収ができなければお金を出すことはしないだろうから、どれだけ企画が良くても貸し出すことはできない。多くの自治体では、道の駅を設置する上で市が保証となることで第三セクターがお金を借りることができているが、債務免除など金融機関にも負担が大きくなる場合もある。金融機関は大切なお客様の預金を運用しているのであり、企業にやる気がなければお金は出せないだろう。</p>
	事務局	<p>最終的には道の駅を目指すというゴールは残しながら、徐々にできることから着手するという趣旨のもと、市民や観光客に対し、登別市内にはどのようなものがあるのかを知ってもらうための情報発信を行うことから始めるということになった。その手段として、マップ作りなどが挙げられたところである。まだまだ出来る事、考えなければならぬことは沢山ある。だが、限られた時間の議</p>

		論の中では、まずは短期的に取り組む事項を考える事をきっかけにしながら、将来的な展望に向けて継続的に考えていく場を設ける必要があるという結論を、協議会の提言に盛り込んでいこうと考えている。
	委員	情報発信は、常時新鮮さが求められるため、更新の仕方に気を付けなければならない。
	委員	道の駅は皆が求めている、これからの打開策としては道の駅が必要だということは皆が思っていることだと思う。方々で議論をしているが、それが市内全体としてまとまっていない。それをまとめるような組織が必要であり、それを担えるのは行政ではないか。
	委員	登別商工会議所では、『オアシス構想』として、道の駅のあり方について市長に提出している。そして、市長も登別の街並みを含めた構想に関する協議の場の必要性を感じているようである
	委員	登別全体でみれば、必要なのは明らかだが、様々な地区の利害関係の前に、一つになっていない。 例えば市に道の駅設置を担う課を設けるなど、旗を振る人がいなければ、立ち消えになってしまふという懸念がある
	委員	マップを作るとしたら、どのように作るのか。
	委員	各地域及び各商店街を一括して取りまとめる組織があれば、市内全域を網羅した情報発信が可能となる。 お客さんによく言われるのが、温泉はすごいが、他には何もないということである。
	委員	これも情報発信が不足している証拠だろう。食べ物以外にも、アクティビティーを中心とした情報発信ができれば、付加価値のある旅行が出来るとわかった観光客の宿泊数が増えるだろう。
	委員	温泉の魅力がある登別に、滞留できる理由があれば、滞在してくれる期間が増える。
	事務局	登別には、まだまだ磨き上げが可能なスポットがいくつもあることがわかってきただろう。これ

		<p>らを活用する方法、周知する方法などを練り上げていく必要があるだろう。</p> <p>そのためには、誰がやるのだろうか、どのようにやるのだろうかという点をまずは考えてみてはいかがだろうか。</p>
	委員	<p>やる気のある人が立ち上がるべきだ。</p> <p>懸念材料として、温泉関係者は、インバウンドの増加により目先の利益が上がっている状況の中、現状を維持する意向であるだろうが、今後の事を考えていくと、不安である。</p>
	事務局	<p>温泉関係者も、以前の様な囲い込みの姿勢から、少しずつ変わってきているのではないかという声は聞こえてくる。</p>
	委員	<p>登別温泉が高騰しているという声を聞く。登別温泉に泊まりたいが、ちょっと高いから洞爺湖温泉に、という客層もいると聞いている。</p>
	事務局	<p>可能であれば、アーニスにある空き店舗の一つを情報発信の拠点として設けることができればという意味あい、アーニスを選択したのだろう。</p> <p>各地域の魅力的なものを、それぞれの地域から引っ張ってくる事ができれば理想だろう。</p>
	委員	<p>登別のいいものを沢山挙げてきた。更に活用する方法を見つけ出す余地はあるだろう。</p>